



日本キリスト教連合会委員長
山北 宣久

いざという時も 日キ連

「日本キリスト教連合会」つまり「日キ連」は何のために存在するのか。この問いについては日キ連規約の第三条に記されている。

「本会は次の各号に掲げる事項を目的とする。

(1) 宗教法人法に基づいて、共通する法人事務の向上をはかるため、加盟団体関係者が、相互に研修し、合わせてその親交を深める。

(2) 憲法第20条及び第89条に示された『信教の自由』及び『政教分離』の原則に基づいて、全キリスト教会の信仰における良心の自由と共通の利益を守る。」

プロテスタント諸派とカトリック中央協議会との緊密な協力のもと、先に掲げた目的達成のもと日キ連は活動を続けている。

九名から成る常任委員会は大体隔月ペースで開催されているが、所轄庁が宗務行政における宗教界の窓口と位置づけている、日本宗教連盟とそのもとにある東京都宗教連盟の報告を可成り詳しく聞いて協議している。

宗教法人法に基づいた活動云々ということになると、一般の教会は直接的な関わりが薄く、関心も低い。しかし、この部分が曖昧となり、疎かになると、誰が痛い目に遭うか。いうまでもない。

それを軽視する教会自身である。

従って、教会の存在そのものに関わる宗務的側面について、いざという時、役立つのが日キ連である。所轄庁とのパイプを強く持つ日キ連は的確に対応する知恵と力を有し、所属の教派・教会を支援できると自負している。

しかも、キリスト教会としてアンテナを張りつつ現代社会に関わっていく諸問題についても日キ連は公開での会合を催してきている。

本号にて報告されている如くである。また、「宗教と生命倫理シンポジウム」「宗教と税制シンポジウム」等、日本宗教連盟が主催する会合、さらには都宗連主催の「資産税課税目的による宗教性判断の是非」についての講演会にも参加を呼びかけている。

従って「いざという時でない時」も日キ連は意味と実のある会合への招きをなしている。アンテナを掲げ、日キ連が発信する動きをキャッチし教会の幅を拡げたい。

役立っている「法人事務・会計実務研修会」は今年で第35回となる。参加した人が得をする会を重ねる日キ連にて主のご委託に応える生きた教会の形成を実現せられたい。

定例会

2008年2月26日午後1時30分～3時 キリスト教会館4階

今、この時代での伝道の使命は

講師：鈴木功男氏（日本基督教団 常議員）

今回の定例会では、ケース・スタディとして「日本基督教団の50年データ」の分析に基づいて、今の日本のキリスト教会が直面している共通の課題を語っていただきました。



日本基督教団「教団50年データ」は、07年に「教団全体の財政について将来展望を示して欲しい」という要望に応えてまとめられたものです。課題を共有し、将来に向けて建設的な話し合いが重ねられることを願っております。内容は、過去50年のデータ分析と提言です。

1 過去50年の分析

信徒数を計るとき、現住陪餐会員と別帳会員の両方の動向を見る必要があります。現住陪餐会員数は、ピーク時だった49年から、07年には22%減少しています。今後10年でさらに

10%の減少が予想されます。高齢化は社会一般よりも教会で顕著に表れています。ある教会では、60歳以上の構成比が49%、30歳代以下が15%未満となっています。受洗者数を見ると、52年の1万5千8百名から07年は1千4百名に落ちていきます。歴史的には68年の教団紛争時に急落したことは明らかです。以来、回復の兆しは見えていません。推定では、召天者数が受洗者数を上回っているのが現状であると思われます。

教会学校に目を移すと、さらに深刻な状況が見えてきます。30万人だった生徒数は2万人弱と、実に50年で85%も減少したことになります。少子化による子どもものの減少率が40%を差し引いても、いかに厳しいかが浮き彫りになります。

2 カトリック教会との比較

信徒数の比較を見ると、日本基督教団が48年から07年までほぼ横ばいに対して、カトリック教会は48年のスタートではほぼ同数であった信徒

数は、07年には4・3倍に達しています。受洗者数においても3〜5倍であり、特に求道者数は教団側に資料はありませんが、圧倒的な差となつてることが予測されます。

別帳会員の取り扱いにも差が見られます。教団の定義では「信徒が教会に関わらなくなった」というニュアンスなのに対し、カトリックでは「手を尽くし捜しても連絡のとれなかった信徒」となっています。ここにも教会の姿勢の違いが表れているように思われます。

3 分析に基づいた提言

将来を展望するとき、何としても伝道低迷の40年と決別し、大胆に一步を踏み出さなければなりません。

教会学校に在籍した50万を超える人々に教会に戻ることを、別帳会員の6万4千人の方々に教会に戻ることを、教会のみなさんには「伝道する教会」に戻ること提言します。合い言葉は「教会にかえろう！」です。

法人事務・会計実務研修会へのお招き



2008年10月6日(月)～8日(水) 天城山荘において開催

昨年秋、天城山荘で34回目となる「法人事務・会計実務研修会」が開催されました。研修会の様子や参加された方々の感想をご紹介します、次回研修会へのご案内といたします。今秋の研修会にはぜひご参加ください。

毎年秋に開催される日本キリスト教連合会主催の「法人事務・会計実務研修会」は、今年で35回目を迎えます。2泊3日でみっちり学ぶ充実した研修の機会です。

文化庁や都道府県が開催する宗教法人を対象にした講習会があります。大切な講習なのですが、一方で「お役所仕事だな～」と感じることもしばしばです。そんな講習会をイメージして日キ連の研修会に参加されると、その充実ぶりに驚かれるはずです。

研修会は、敬虔な礼拝を捧げることから始まります。心をつにして神さまを賛美します。参加者は例年40～50名で、3つのグループに分かれますので、行き届いた学びと指導がなされます。キリスト教の教会に特化した研修内容で、安心して講義を受けられますし、質問も「これがわからない」「どうすればいいの」と具体的に尋ねることができます。

法人事務クラスでは、わずか3日間で教会(教団)でしなければならない仕事の全体像が把握できます。個々の仕事はわかっていますが、全体の流れが意外と見えていないことがあります。無駄のない、正確な法人事務を行うために、ぜひ一度クラスを履修してください。抱えている疑問に、的確なアドバイスを

受けることができます。

会計実務は2つのクラスに分かれます。会計全般と税務に関するクラス、パソコンを導入し活用するクラスの2つです。税理士の方が担当していますので、どんな疑問もたちどころに解決します。複式簿記など少し難しい内容もあるかもしれませんが、ぜひ挑戦していただき、証しの立つ会計処理に務めていただきたいと思います。

毎年、参加者にはアンケートを書いていたいております。皆さまから、きわめて満足度の高い研修会であるとの評価をいただいております。場所良し、プログラム良し、食事良し、環境も申し分なしです。普段の忙しさから解放され、集中して学ぶ日キ連の研修会に、今年ぜひご参加ください。

2009年の予定は、まだ最終的に確定しておりませんが、10月頃に、会場を箱根に移して開催する予定でおります。決まりましたら改めてご案内します。案内申込書を8月初旬にお手許にお届けいたします。



写真は、昨年の研修会パソコン会計処理クラス



2009年度の活動計画のご案内

定例会・講演会など有意義な集いを予定しています。ご期待ください。

すでにご案内しております日本キリスト教連合会 2009 年度総会を開催いたします。

プログラムは、正午から昼食を共にして歓談の時を持ちます。その後、昨年度の諸報告（日本宗教連盟、東京都宗教連盟、日本キリスト教連合会の常任委員会および定例会等）をいたします。さらに昨年度の会計、新年度の活動計画と会計予算の報告をし、ご承認をいただきます。ご質問、ご意見、ご提案等をお聞かせください。

記

■日時 2009年4月23日（木）

12:00～15:30

■会場 日本基督教団 4階会議室

*委任状などの提出書類は、総会が始まる前にご提出をお願いいたします。

●日本キリスト教連合会役員（2008年度）

委員長 山北宣久
常任委員 愛澤豊重
相澤牧人
川勝高宏
前田万葉
立野泰博
中村隆治郎
佐藤丈史
矢木良雄

■講演会 午後2時から

「最近の宗教と法律問題」

講師 棚村政行先生

（早稲田大学大学院法務研究科教授、

日本基督教団青山教会会員、弁護士）

首相の靖国神社参拝をめぐる訴訟、情報公開と所轄庁への提出書類の扱い、カルト的教団の事件、休眠宗教法人の買い取りと脱税など、最近のホットな話題を通して、宗教団体のあり方と法規制について皆さまといっしょに考えてみたいと思います。

*講演の最後に、質疑の時間を設けます。ご質問のある方はご準備ください。

*コーヒー・ブレイクは歓談の時間です。

▼分担金納入のお願い

総会が終わりますと、各教団・教会宛に今年度の「分担金納入のお願い」をお送りいたします。なお分担金額については、2007年度総会において承認された「2009年度分担金」の金額となります。ご連絡をいただいた教団・教会もごさいますが、ご理解のほどよろしく申し上げます。

*日本キリスト教連合会へのお問い合わせは東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本基督教団事務局「日本キリスト教連合会」へ。

電話03(3207)8768